

猛暑に負けない! 抑制トマトの高温対策

～増収には 適度な遮光 と こまめな かん水～

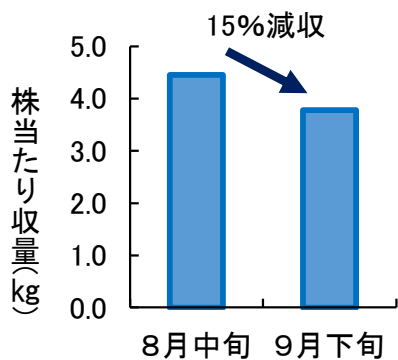
近年は、最高気温が**35℃以上**の猛暑日が増え、暑さに弱いトマトの秋の収穫量が減っています。この対策を紹介します。

生育初期には適度な遮光が必要です

植えたばかりの小さな苗は、蒸散がまだ盛んではありません
ハウス内は極端に乾きやすく、植物が異常に水分ストレスを受けやすい状態で
遮光率20～30%の遮光ネット等を上手に使って日差しを弱めましょう(右の写真)



巻き上げ装置付きの遮光資材



遮光の中止時期と収量の関係

ただし、遮光しすぎに注意

大きな果実をたくさんつけるには、光合成を十分に行う必要があります
暑さを避けるために遮光をいつまでも続けると減収します(左のグラフ)
収穫期が近づく**8月後半には遮光資材を外します**

巻き上げ装置で残暑の作業も楽に

残暑の年に遮光を中止すると、中で作業するには暑すぎる場合があります
写真のように遮光資材を巻き上げられるようにすれば、入室時のみ遮光できます

かん水はこまめに

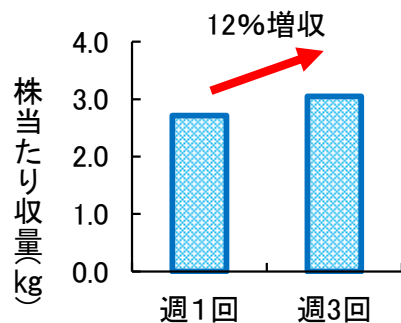
トマトは土壌水分や空気湿度が低すぎると、葉や果実が大きく育たず減収します
多収を目指すには、**週3回～毎日**のかん水が必要です(右のグラフ)

pFメーターで土壌水分を確認しよう

土の表面が湿っていても、内部まで水が足りているとは限りません。
pFメーター(下の写真)を使用して内部の水分状態を確認しましょう。



pFメーター



かん水間隔と収量の関係

※週当たりのかん水量は同じ

このほかの対策

中段の着果改善

初期の果実が多すぎると、3～4段目の着果が悪くなります
このため、**1～2段目は3果程度**に摘果します

上段の裂果防止

日当たりが良すぎると上段の裂果が増えます
最上位の側枝は除去せず残して、果実に日陰を少し作ります



猛暑対策で順調!
収穫まであとわずか

